

会 見 年 月 日	令和3年10月20日（水曜日）
担 当 課	文化財課
問い合わせ先	電話：0791-43-6962 （内線：2325） FAX：0791-43-6895 （担当者名：山中）

赤穂市立有年考古館企画展「染の形紙―紺屋・松岡家―」 の開催について

1. 趣 旨

有年考古館を創設した松岡秀夫氏の生家は、江戸時代から大正時代まで紺屋（染物屋）を営んでいました。有年考古館には、そのときに使用されていた染形紙が600枚以上収蔵されています。染形紙には浴衣や布団地、袴に使用される細かな文様が彫り込まれており、伝統的な和柄の美しさはもちろん、当時の職人の技術の高さ、そして有年の人々の流行・好み、そして有年の歴史や風土なども知ることができます。

2. 会 期

令和3年10月27日（水）～令和4年1月10日（月・祝）

※令和3年12月28日（火）～令和4年1月4日（火）は年末年始休館

3. 入館料及び観覧料

無 料

4. 会 場

赤穂市立有年考古館1階展示室（〒678-1181 兵庫県赤穂市有年檜原 1164-1）

5. 展示資料

紺屋関係民具（形紙箱・焼印等）、染形紙、関連文書 等 約50点

6. その他

有年考古館は、赤穂市立として平成23年11月にリニューアルオープンしてから10周年を迎えます。これを記念し、10年間の展示活動を振り返る小展示（キャプション・写真の展示）をあわせて行います。

会 期 令和3年10月27日（水）～令和4年3月31日（木）

※年末年始休館、特別展・企画展の展示替えに伴う臨時休館時は見学不可

赤穂市立有年考古館 令和3年度企画展

染の形紙

― 紺屋・松岡家 ―



展示会期

2022

10.27 - 1.10



染の形紙

— 紺屋・松岡家 —



赤穂市立有年考古館を創設した松岡秀夫氏の生家は、赤穂郡有年村榎原新田（現在は赤穂市有年榎原）で染物屋（紺屋）を営んでいました。

松岡家は安政年間（1885～1860年）から大正時代頃まで染物屋を営んでおり、有年考古館にはその時に松岡家で使用されていた染形紙が600枚以上も残されています。

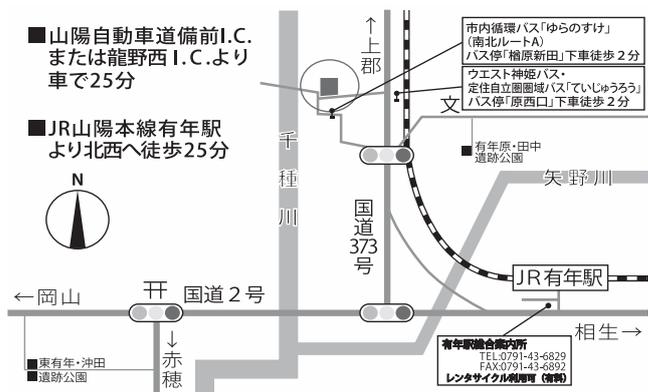
染形紙（染型紙とも）とは浴衣や袴などの着物、布団地に文様を染め付けるために使用された紙のことで、柿渋で耐水性を持たせた和紙に、職人が手彫りで繊細な文様を彫りこんだものです。

形紙は伊勢白子（三重県伊勢市）・播州三木（兵庫

県三木市）・京（京都府京都市）などで生産されたものが行商人の手によってはるばる有年地区まで持ち込まれ、当時の最先端の流行を伝えました。形紙には各地の職人によって、様々な文様が微細に彫りこまれています。

こうした染形紙からは、伝統的な和柄の美しさはもちろん、当時の職人の技術の高さ、有年の人々の流行・好み、そして有年地区の歴史や風土なども知ることができます。

今回の展示では、松岡家に所蔵されていた染形紙の美しさと職人の技術の高さ、そこからわかる歴史をご紹介します。



〒678-1181 兵庫県赤穂市有年榎原1164番地 1
 TEL・FAX 0791-49-3488 **入館無料**
 ■休館日 ■ 火曜日 ※火曜日が祝日と重なる場合は次の平日
 年未年始（12月28日～1月4日）
 ■開館時間 ■ 午前10時～午後4時（入館は午後3時30分まで）
 ■Webサイト ■ 「赤穂市立有年考古館」で検索！
 ■Mail ■ bunkazai@city.ako.lg.jp